事例1 初めて特別支援学級を担任する先生へ

～自らの心を開き,明るい人間関係を作ろう～

転勤して初めて特別支援学級の担任となったカワサキ先生。学校の中で，自分や学級が置き去りにされているのではないかと孤立感を感じ，悩んでいます。「学級も，子どもも，自分も明るく元気に頑張りたいけれど，どうしたらいいだろう」と思う毎日です。

●カワサキ先生の悩み

学級が取り残されているような気がするんだなあ

子どものことをだれかに相談したいけれど，だれに話したらいいんだろう。

原学級の先生にしか行事に関する連絡がない。当日にあせることばかり。子どもに事前指導できなかった。

カワサキ先生

初めての学校でわからないことだらけ。だれに聞こうかな。先生たち，みんな忙しそうで，声をかけられない。

このお便りいつ配ったの？また，うちの学級だけ忘れられた。毎回，言わないといけないのかな。

●悩み解消へのきっかけ　＊相談できる人を徐々に増やして

保健室の先生が声をかけてくれました

カワサキ先生の表情が気になっていた保健の先生が声をかけてくれました。カワサキ先生は思いきって悩みを打ち明けました。相談に乗ってくれた保健の先生はその後，教室に顔を出したり，学級の子どもと遊んだりするなど，気にかけてくれています。

気持ちが軽くなってきたカワサキ先生は，自分から音楽の先生や事務室の先生にも話を聞いてもらいました。今では多くの先生にいろいろな場面で協力してもらっています。

知り合いの先生に勧められ，指導主事派遣の依頼もしました。

●悩み解消の糸口　＊学級への理解を広めるために指導主事を活用して

カワサキ先生は，これまでに感じていた様々な悩みを指導主事にも話し，相談に乗ってもらいました。

時間割はどうやって組んだらいいですか？子どもが揃わなくて生活単元学習が組みにくいのですが。

「カズオさん，最近不安定ね。どうしたの？」って言われたけど，支援の仕方が間違っているのでしょうか。まだ学級の子どもとの信頼関係が築けないのです。

指導主事は全職員への指導の中で，カワサキ先生の悩みをもとに，特別支援学級の担任が抱えている悩みや，時間割で配慮してほしいこと等，全校をあげての協力が必要なことなど，担任からは言いにくいことを話してくれました。

●できることを自分から始めて

学級の様子を積極的に発信しよう

学年会や休み時間。周りの先生方に学級や学級の子どもたちのことをできるだけたくさん話しました。今，課題となっていることや成長の様子を伝え，協力をお願いしたり，アドバイスをもらったりしました。

学級便りを全員の先生に配布しました。「カズオさん，たし算ができるようになったのですね」「この活動はこんな工夫ができそうだね」と，お便りを読んだ先生が子どもの成長をほめてくれたり，アドバイスをくれたりしました。

学校のあちこちで，学級の子どもたちに声をかけてくれる先生が増えてきました。

自分から声をかけていこう

行事前には，係や原学級の担任にこちらから声をかけ，活動の流れや具体的な動きを確認し，準備を進めました。学年や学校全体がかかわる行事では，学級の子ども一人一人の動きを気にする必要があります。事前にそれぞれの子どもの動きを考えておくことが重要です。

各学年・学級のお便り配布にも気を配り，自分で取りに行きました。口頭でお願いするだけでなく印刷室に貼り紙もしました。

先生方へ

お便り,配布物等は,特別支援学級にも忘れずに配っていただきますよう,お願いします。

どこに何があるか知っておこう

周りが見え始め，心の余裕もでてきました。生活単元学習の準備を始めましたが，必要な物が教室にはありません。「A先生が知っている」との情報からA先生に教えてもらい，準備を進めました。

その後は機会あるごとに校内を見て歩きました。「先生，ここにこんなものがあるよ」と，子ども達。「これは授業にも使えそうだな…」校内の様子が分ってくるにつれ，子ども達との活動が楽しみになってきました。

専門の先生に聞いてみよう

「どんな教材を使えば楽しく授業できるかな？」理科の授業にあたって専科の先生に相談しました。教わった教材を使った授業は子ども達に大好評。

音楽や家庭科についても専科の先生に相談しました。授業に広がりが生まれ，何よりも子どもたちが生き生きと活動に取り組んでいます。

畑仕事が得意な校用技師の先生は，鍬の使い方や畝の作り方を実際にやって見せてくれました。子どもたちも，いつも以上に熱心に教えてもらっていました。

●そして今…　カワサキ先生は外に目を向け、積極的に活動を始めています

積極的に研修会に参加し，先生方に報告します。
教室を空けるのは難しい？いえ，大丈夫。教頭先生や教務主任の先生，原学級の先生が学級に入ったり一緒にできる活動を用意したりして協力してくれます。

子どもたちの大好きなお化け屋敷ができた。原学級の子どもたちを呼んでみよう。
隣の学校の特別支援学級の友達も呼んでみよう。

共に歩む

相談にのってくれる先生がそばにいることが，どれくらい安心をもたらすかしれません。思い切ってまずは自分から周囲の先生に声をかけましょう。

校内には様々なニーズのある子どもたちの支援について，悩んでいる先生がいます。こうした先生が孤立感を持たないように，特別支援学級担任の立場からも積極的に声をかけ，一緒に考えたり悩んだりする仲間でありたいと思います。

自分の学級の子どものことも，他の学級の子どものことも，共に支え合い，互いにアドバイスし合うことが大切です。

事例 2

元気はつらつ楽しい学級

～特別支援学級からの発信を～

特別支援学級が校内において存在感のある学級でありたいと願っています。児童生徒一人一人の個性を生かしながら，学級づくりを進めたいのですが，原学級との行き来もあり，学級としてのまとまった活動時間が確保できないこともあります。

特別支援学級の活動が理解されているのかなと，不安になることもあります。校内での存在感を高めるにはどうしたらいいのでしょう。

●ナルサワ先生の悩み

子どもがいる時間がバラバラで，まとまって活動できにくい状況です。原学級の先生方は子どもたちを大事に考え，原学級で過ごす時間をきちんと確保してくれているからこそ，なんですけど…。

教室が他教室から離れ，取り残された感じがしています。
学級の子どもたちは気にかけてもらえているのか不安です。
担任自身の元気がなくなってしまっている感じがします。

● 原学級の学年会に参加して

行事をきっかけに，学年会に参加し，これまでに感じていたことを相談しました。話し合う中で，原学級の担任にも悩みや迷いがあることがわかりました。

「原学級の中でも，特別支援学級の子どもを大切にしたいんだ。この子たちの良さをもっとみんなに知ってもらいたいけど，それがうまくいかないんだよ」「特別支援学級の活動をもっと広く知らせて，他の子どもたちとのかかわりを深めていくことが，お互いが伸びることにつながっていくはずですよね」と他の先生も言ってくれました。

話し合う中で，大切なのは，特別支援学級の活動を全校に向けて「発信」していくことだと互いの考えが一致しました。その後，活動の具体案をみんなで考え合いました。

●一人一人の得意なことを生かし、特別支援学級の活動をアピールしよう

活動の決めだし

学級活動の発信。それが当面の目標です。どのような活動ができるでしょうか。

子ども一人一人の得意なことを組み合わせながら，すぐに取りかかれそうなこと，繰り返し取り組んでいけそうなことはないでしょうか？

得意なことを出し合う中で，「学級壁新聞作り」のアイディアが浮かんできました。

トモノリさんは絵が得意だよ。絵日記だと毎日ちゃんと書いて来るんだよね。

そう言えば，ヒロキさんは最近デジタルカメラが好きだよね。飼育小屋のウサギの写真とかたくさん撮ってたなあ。

活動の構成

絵が好きなトモノリさんの絵日記やイラストと，ヒロキさんが活動の中で撮っている写真を一枚の模造紙にまとめて「今月のニュース」として壁新聞にすれば，学級の学習活動にもなるし，学級の様子を知ってもらうこともできます。

活動を進める中で

学習の中心には得意な活動，興味を持っている活動が据えられ，子どもたちはじっくり活動に取り組みます。ナルサワ先生もゆとりをもって，支援に取り組むことができました。

学習の積み重ねは目に見えるものとして次第に変化し，「壁新聞」となっていく喜びがありました。

新聞の内容も少しずつ豊かになりました。

壁新聞を毎回読んでいた他の学級の子どもが「これも載せて」と，４コママンガを持ってきました。自然な交流も生まれ，活動が発展していきます。

特別支援学級の子どもたちだけでなく，学校のみんなが楽しみにしてくれるようになりました。

交流の発展から連携の発展へ

壁新聞作りをきっかけに，担任同士の情報交換が盛んになりました。それに伴い，図工の授業に原学級と一緒に取り組み，そこで作った作品の販売会をしたり，合同で調理実習・食事会をしたりと，交流活動も活発に行われるようになりました。

音楽会では，原学級への参加だけではなく，特別支援学級単独の発表もできました。音楽指導に自信のなかったナルサワ先生でしたが，楽器の得意な先生たちがバックバンドをやって盛り上げてくれたのです。

●元気が出てきたぞ。楽しくなってきたぞ

まとまった活動時間が確保できなくても，一人一人の得意なことを積み上げていけば，いろんなことができるんですね。ほかの学級の先生方からも関心をもってもらえて，声をかけていただくことが増えました。

自分だけで考えているときは「こんなことやりたいな。でも，できるかな？みんな協力してくれるかな？」と心配が先にたっていましたが，他の先生方と相談をはじめると，その中から楽しいアイディアがいろいろ出てきて，自分自身がとっても楽しくなってきました。学級に遊びにくる子どもも増え，新しい交流の芽もでてきたように感じます。

共に歩む

自分の学級の子どもたちが注目されていないと思ってしまうと，特別支援学級担任の元気は無くなりがちです。そこから抜け出すには，地道な「発信」を継続していくことが近道のようです。

最初から全部お膳立てをして，いきなり主役に据えようと考えるのではなく，小さな発信を日常的に行っていくことで，特別支援学級への注目が増し，校内での存在感が高まっていきます。

特別支援学級が生き生きしてくると，生徒や先生が集まり，自然に次の活動へのヒントが生まれてきます。

事例3 子どもが生き生きと生活する毎日を願って

～生活単元学習を中核とした生活づくり～

保護者の要望にも応じながら国語や算数など教科学習への個別対応を心掛けていますが，それだけでは，子どもたちの学校生活が，生き生きしたものになっていないと感じています。「めあて意識のもてるまとまりのある生活にしたい」「活気がある充実した毎日にしたい」「生活単元学習に取り組みたいが，どんな活動に取り組んだらいいのだろう…」と悩んでいます。

●イシカワ先生の悩み

○ 今のままの学習でいいのかなあ。
○ 子どもたちは，喜びのある生活を送れているのかな。
○もっと，活気が出るような，生き生きとした学習ができたらなあ。

●子どもの興味関心を探り、生活単元学習を仕組んでみよう

きっかけ：日頃の活動の中から，

4月。春探しをかねて何度か散歩に出掛けました。散歩から戻った子どもたちはいつも「おなかがすいた」「おやつを食べたい」と言っていました。

探る：

散歩から早めに戻ったある日，イシカワ先生は，畑のニラで「ニラせんべい」を作って出しました。子どもたちは大喜び。口々に「また，食べたい」と言います。「じゃあ，作ってみる？」というイシカワ先生の問いに，子どもたちは「うん，作る」「作る」と声を上げました。

試す：

早速子どもたちと作りました。役割分担するか，それとも一人一人が作るのがよいか。それぞれにどんな支援が必要か。どんなねらい設定ができそうかなどを試します。

支援を工夫しながら自分の物を自分で作る方法がよさそうでした。

いい匂いに誘われて立ち寄った友だちが「おいしいね」「またちょうだい」と言って部屋から出ていく様子を，子どもたちがうれしそうに見送ります。そして「もっといっぱい，お友だちにあげたい」と口にするようになりました。

単元の成立：

参観に来た保護者から「お店やさんができれば楽しそうね」と聞いた子どもたちは，「ニラせんべい屋さんやろう」「看板も作ろう」「お客さんがいっぱい来るといいなあ」と，期待をふくらませていきました。子どもたちなりに活動を発展させていくこともできそうです。

「ニラせんべいを作って，お友だちに喜んでもらいたい」という願いのもとで，単元『ニラせんべいやさん』を開始しました。子どもたちは張り切って，お店の準備やニラせんべい作りに取り掛かりました。

●単元展開の概要

○店の飾り付けやポスターなどの準備
○クラス毎２時間目休みに特別支援学級に来て食べてもらう
・友だち全員に引換券を渡す
・一日１クラス（全クラス対象）
・材料代として学級費より300円をいただく。

→

○希望する方を対象に１枚10円で販売
・学校長の許可を得る
・家庭にお便りを配付
（販売の周知と協力を依頼）
○特別支援学級へのメッセージカードを記入してもらう

●子どもたちの教育課題と単元のねらい

	教育課題（抜粋）	単元のねらい	主な支援
トモキ	二語文程度のやりとりを増やしながら，人と一緒に活動したり，コミュニケーションをとったりすることができる。	二語文程度のやりとりをしながら，ニラせんべいをお客さんに出したり，お店の準備をしたりすることができる。	・お店の準備中に，ニラせんべいにかかわる質問をする ・「せんべい，どうぞ」とお客さんに声を掛けるよう促す。
ナオキ	安定した気持ちで，人とかかわったり，活動に取り組んだりすることができる。	友だちと協力してお店の準備や，メッセージカードの飾り付けに取り組むことができる。	・作業分担を明確にする。 ・出来映えにかかわり，よいところを具体的に称賛する。
マサオ	体や心の調子を整えながら，出来るだけ休まずに登校し，元気に活動することができる。	ニラを切る，小麦粉と混ぜる，焼くなどの一連の活動に主体的に取り組むことができる。	・演示しながら説明する。 ・様子を見守り，自信を持ってできるようになったところから支援を少しずつ減らす。

【メッセージカードより】

外はパリパリ，中はモチモチですごくおいしかったです。また，食べに来ます。

こころをこめてつくってくれてうれしかったよ。また，くるから，あそぼうね。

●生活単元学習を実施してよかったこと

子どもたちが生き生きと生活できます

○　「ニラせんべい，いっぱいつくるよ」「きょうも，がんばろうね」などと，子どもたちはめあてをもって登校してくるようになりました。ニラせんべいやさんを中核とした生活に張り切って取り組むことができました。

○　特別支援学級の子どもに声を掛けたり遊びに来たりする子どもが増えました。また，お便りや掲示物を通して特別支援学級の様子が保護者に伝わり，その理解にもつながっています。

特別支援教育についての理解が広がります

○　実際の学習を数回に渡り参観していただきながら，個別の指導計画と関連づけてこの学習でのねらいを保護者に説明しました。その中で，支援方法や育ちを共通理解することができました。

　また，「ニラせんべいやさん」で得た収入の計算や，お店準備で文字を書いたり作文を書いたりするなど，教科の学習と関連させながら，学習を深めることができました。

共に歩む

子どもたちの生き生きとした毎日を実現していくために生活単元学習は有効です。

子どもたちの興味関心を出発点とし，子どもの思いに沿って活動を構成しながら，一人一人について個別の指導計画に照らし合わせて学習のねらいを定め，学習を進めていきます。

その中では，周囲の理解や協力も得られ，より楽しい学校生活が実現されていきます。

事例4 見通しをもって活動に取り組む生活単元学習の工夫

～生徒たちがめあて意識をもち,まとまりのある生活になることを願って～

テープ方式の中学校の時間割。曜日ごとに固定された週時間割ではありません。特別支援学級の生徒たちは原学級の時間割によってまちまちに出入りをしています。そんな状況であっても，生徒たちが学校生活を楽しみにでき，生きる力を育める生活単元学習を行いたいと願っています。そのために，どんな工夫ができるのでしょうか。

●生徒が見通しを持って活動に取り組めるようにしたいけれど…

学級全員が集まれるのは週２時間程度。見通しをもった生活単元学習の活動が難しくなります。どんな工夫ができそうかを考えながら学習を進めていきました。

○週学習計画ではどんな工夫ができるかな

（単元「おいしいクッキーをたくさん作って大勢の先生に食べてもらおう」４・５月の例）

まず，単元にかかわる活動を洗い出し，生徒と相談しながら活動の割り振りをしました。

中心的な活動となるクッキー作りは全員が集まる時間に行うこととし，２人の時間の活動（クッキー販売や片付け，先生の写真への説明書きなど），１人の時間の活動（片付けや会計，チラシ作りなど）と，割り振り，個に応じてクッキー作りに関係した活動をまとめて単元化しました。

生活単元学習　特別支援学級での教科学習　原学級の学習

月	日	曜			1校時	2校時	3校時	4校時	5校時	6校時
5	22	月	テープ番号		19			22	学	
			1年	マコト君	美術			社会	学級活動	
			2年	サトシ君	教科学習			クッキー会計	学級活動	
			2年	オサム君	技・家			美術	学級活動	
5	23	火	テープ番号		23	24	25	26	27	
			1年	マコト君	教科学習	クッキー作り	保健体育	音楽	校内の先生に	
			2年	サトシ君	保健体育		技術家庭	技術・家庭科	クッキー販売	
			2年	オサム君	保健体育		片付け	教科学習	理科	
5	24	水	テープ番号		28	29	行	行事	3	
			1年	マコト君	AETの先生に	社会				
			2年	サトシ君	クッキー販売	理科	室			
			2年	オサム君	音楽	道徳				

３人の時はみんなでクッキー作りをしたり販売をしたりしよう。

１人の時はクッキー作りに関係した活動ができるね。

２人の時はクッキー作りの片付けをしたり，販売をしたりしよう。

○単元にかかわる活動と展開の概要

期間	クッキー作り （23時間）	その他の活動 （10～12時間）
醸成期間	①クルミクッキーの試し作り （３時間） ・クルミ割りをしよう ・クルミクッキー作り ・試食会（事務室や交流学級の先生と）	①特別支援学級３人で楽しく頑張ろう （２時間） ・自己紹介文の作成，自己紹介 ・昨年度の活動の振り返りと今年度活動計画
クッキー作り・販売	②単元開始 ○第一部　クルミクッキー作り （８時間） ・クルミ割り，クルミクッキー作り（全過程を一人で） ・袋作り，販売練習，販売，先生の写真撮影 ・製作活動の反省　・会計 ○第二部　クルミクッキーとチョコレートクッキー作り （12時間） ・二種類から選んで作る（ペアを作って） ・袋作り，販売練習，販売，会計	②先生方へ販売のためのチラシをつくろ（１時間） ・パソコンによるチラシづくり ③先生の写真一覧を作ろう （４時間） ・写真の準備 ・名前，教科などの説明書き，貼り付け ④AETの先生にクッキーを販売しよう （２時間） ・AETの先生に販売
まとめ		⑤校外学習でまとめをしよう（２時間＋１日） ・計画，買い出し，当日の活動，まとめ ⑥出納簿を付けよう （１時間）

○教室環境ではどんな工夫ができるかな

生活単元学習の授業がない日にも，単元を意識できるように，
教室壁面への掲示を中心に，写真のような工夫しました。

○意欲が持続する単元展開の工夫・主体的な活動になるための支援方法の工夫

- 一人一人が自分の力でたくさんできるよう，レシピや道具など支援方法を考えよう。
- 先生も一員，一緒にクッキーを作ろう。共に活動しながらさりげない支援を心がけよう。
- 違う種類のクッキーも取り入れて，選択したり活動の幅を広げたりできるようにしよう。
- 友だちとかかわりが広がるよう，グルーピングを工夫しよう。
- 楽しい校外学習をみんなで計画しよう。

●見通しをもった年間計画を作成しよう

季節の生活や学校祭，参観日などの学校行事と関連付けるなど，生徒たちの生活から生まれる願いをくみ取り，実現できるように，生活単元学習の計画を生徒と共に作っていきます。独自の行事（目標）を持つことで，更に見通しをもった活動になると思います。

4 月	おいしいクッキーをたくさん作って大勢の先生に食べてもらおう	10 月	パンジーの花を育てよう
5 月		11 月	畑でとれたもので，お菓子を作って先生やお母さん方に食べてもらおう
6 月	畑でサツマイモやカボチャを育てよう	12 月	
7 月	学校祭で縁台とクッキーを販売しよう	1 月	パンジーとプランターカバーの販売会を開こう
8 月		2 月	
9 月	★学校祭（９月２２～２３日）	3 月	★特別支援学級販売会（３月中旬）

共に歩む

この実践を通して，「人数的・時間的な制約があっても，活動や教室環境を工夫することで生活単元学習が成立し，意欲的な生活を送ることができる」ということを実感しました。この期間，生徒たちはクッキー作りや販売を楽しみに意欲的な生活を送り，その中で一人でもできることが広がり，新入生の友だちも自然な形で学級に位置付いていきました。

本年度は３人の生徒であり，時間の調整をあまりせずに生活単元学習の活動を進めることができました。来年は２人増えて５人になります。学校の先生方の理解を得ながら，次年度のテープ（時間割）作成には特別支援学級担任も参加し，学級全員がそろう時間を確保できるようにしていきたいと思います。

事例5 一人一人が育つ生活単元学習

～明確なねらいのもとに子どもの姿を記録して～

多様な子どもたちが在籍している特別支援学級。それぞれの個性を大事にしながら，集団として生活単元学習を進めたいと思いますが，ねらいが一部の児童に偏ったりみんなで楽しむことが難しかったりすることがあります。また，活動を通して子どもたちがそれぞれどのように育ったのかという疑問も残りがちです。

●どの子も楽しめる活動を

さわやかな気候になり，屋外での活動をメインにしたいと考えていたところでした。休み時間に教室のハンドローラーで遊び始めた5人の子どもたち。思うままに一人で動くことを楽しんでいる子，友だちと二人で追いかけ遊びをしている子。しばらくして，引き出したビニールテープに沿って走り，電車に見立てた遊びを始める子もいました。社会見学で電車に乗ったことを思い出したのでしょうか。畑作業ではどの子も一輪車の扱いに慣れてきていましたので，一輪車を電車に見立てて電車ごっこを楽しもうと考えました。

●単元のねらいと個々の子どものねらい（一部抜粋）

単元名　「電車ごっこをしよう」
単元のねらい：電車ででかけた経験を生かし，一輪車を電車に見立て，お客さんになって一輪車にのせてもらって楽しむ・運転手さんになって好きなコースを通る・駅員さんや駅弁屋さんとのやりとりを楽しむことができる。
1時間の流れ：コース作り（ライン引きでコースをかく）→一輪車を電車に見立てた電車ごっこ→駅弁屋さん

	アキさん（2年）	キヨシさん（4年）
単元のねらい	①友だちの一輪車に乗せてもらったり，自分で一輪車を自由に押したりして楽しむことができる。 ②友だちを真似ながら「ください」「どうぞ」等のやりとりを楽しむことができる。 ③求められた枚数（3枚以下）の模擬紙幣を数えて出すことができる。	①電車のコース作りや切符の販売機作りなどで，自分なりの工夫を楽しむことができる。 ②乗せることができる友だちを一輪車に乗せたり自ら友だちに乗せてもらったりして楽しむ。 ③切符にある行き先を読み上げて，間違えずに目的地に行くことができる。 ④友だちとのやりとりで，「おいくらですか」「○円になります」等はっきり言うことができる。
手だて	● 楽しさが感じられるように，教師が一輪車に乗せてコースを回る。 ● やりとりの場面では，初めは教師が一緒に「ください」等の言葉を言う。 ● アキさんに要求する模擬紙幣枚数は3枚以下にするよう，友だちに依頼しておく。	● 自分から工夫することを見守る。販売機などの製作用に，箱等の材料を用意する。 ● 乗ることの楽しさが体感できるように，教師が一輪車に乗せてコースを回る。 ● 切符の行き先等には読みがなをふり，事前に，読みの練習する。

↑ 個別の指導計画（抜粋）から

実態	模倣はよくできる。簡単な二語文で気持ちを伝えることができる。動きはゆっくりだが，遊具等で遊ぶことは好きである。	とてもおだやかで，みんなに好かれている。 教師には，やりたいことや嫌な気持ちを言うことができる。 簡単な加減・乗法の計算ができる。
教育課題	● 身の回りで必要な言葉を覚え，自分の言いたいことが伝えられる。 ● いろいろな遊具で遊んだり，山の中の探検を楽しんだりして，身体を充分動かす。	● 一人で買い物やバスの利用（乗り換えなし）ができる。 ● やりたいとき，困ったときなど自分の気持ちを友だちにも言える。

●活動の実際と評価

	活動内容	アキさんの活動の姿	キヨシさんの活動の姿
第1時	電車ごっこだよ コース作り 一輪車で電車ごっこ	友だちの様子を見て,校庭に出る。友だちが一輪車での遊びを始めても,ライン引きを,楽しんでいる。教師の誘いで一輪車に乗る。笑顔を見せたり喜びの声をあげたりする。 経験すると、新しい活動にも入れそうだ	空き箱で自動販売機を作り始める。自由に2本のラインを引く。(タクヤさんが横のラインを入れ,線路らしくする。タクヤさんと交代で,一輪車に乗ったり(お客)乗せたり(運転手)して楽しむ。財布がなくて,不便なことに気付く。 →あした作ろう 昨年度の活動を思い出したようだ 活動を広げるきっかけを作ってくれた
第2時	財布を作ろう 電車ごっこ	作り方をエミさんに教えてもらいながら自分で作る。「切符を買うんだよ」とユウタさんに言われ,友だちに教えてもらいながら買う。 友だちとのかかわりが多く見られた レストラン、買い物学習の積み重ねが生きた	授業時間になると,すぐにタクヤさんと財布作りを始め,できあがるとすぐに校庭に飛び出す。乗り換えのために一輪車を1台用意していた。社会見学で乗り換えたことを思い出したようだ。 駅の看板等があれば、更に楽しめただろう
第3時	駅弁(先に作っておいたたこやき)を買おう	電車ごっこを楽しみ終わった頃,教師の「えきべーん」の声が。「お金,2つください」と言われ10円を2枚支払う。	「250円です」と言われ,「250円ないなあ。…そうだ,500円でおつりをもらおう」と言って500円を出し,おつりをもらう。
第4時	遊具は、遊園地	駅員のお友だちに,「タイヤとびだよ」等と言われ,友だちの真似をして遊びながら電車ごっこを楽しむ。	切符に書かれた用事(登り棒をのぼってこよう等)を見て,楽しみを増やすことができた。
第5時	お客さんはチャボ	休み時間に遊んでいたチャボを,そのまま連れてくる。チャボをお客さんにして楽しむ。	アキさんがチャボをお客さんにしているのを見て,チャボをお客さんにする。
第6 7 8時	お客さんはおかあさん 1年生2年生	時間になると,すぐにチャボを抱いてくる。おかあさんや1･2年生にやり方を教えてあげようとしていた。 同じ活動の繰り返しにより,自分から活動する姿が増えている	チャボとおかあさんを一緒に一輪車に乗せてあげたり,乗せてもらい,蛇行運転をしてもらって,楽しんだりした。1･2年生には,行きたい駅を聞きながら,一輪車に乗せてあげていた。

●どんな力がついたのだろう(単元のねらいを踏まえた評価)

	アキさん	キヨシさん
育ちの姿	①友だちを見て,一輪車を押すことやライン引きで線路をかくことがわかり,自分の思いを友だちや教師に伝えて楽しむことができた。 ②友だちに教えてもらいながら,教師と一緒に「ください」「はいよ」等と繰り返す中で,場面に合う簡単なやりとりができるようになった。 ③1対1対応しながら,2枚まで模擬紙幣を数えて渡すことができた。	①生活経験を生かし,乗り換え駅の設置や自動販売機作りなど,活動を楽しくしていく工夫ができた。 ③読みがなを頼りに切符の駅名や用事等をゆっくり読んだ。 ④小さめの声だったが切符の売買や駅員さんとお客さんとのやりとりを楽しむことができた。 ◎何百何十円は正確に出せた。自分でおつりを計算したり,難しいものは友だちに教えてもらって渡したりすることができた。 →今後の学習に電卓の活用を取り入れていきたい。

共に歩む

子どもたちの遊びや生活の中に生活単元学習のヒントがあります。一人一人の興味関心をつなげ,みんなで楽しめる単元設定ができると,子どもたちの満足度もアップします。

単元のねらいは,教育課題や単元のテーマを踏まえながら設定しましょう。その際,教科の力も考慮します。個に応じて教科学習との関連を図りながら,生活の中で生かされることがのぞまれます。

単元が終了したときに,「また、やりたいね」と子どもが満足できる活動になったか,また個々のねらいが達成できたか,子どもの姿の記録をもとに評価しましょう。

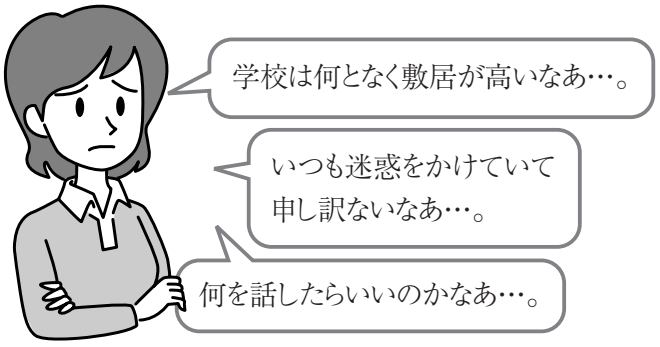
事例6 保護者と共に作成する個別の指導計画

～その子らしさ・よさを保護者と共有して～

個別の指導計画を作成するのですが,教師から家庭への一方的な提案になってしまっているのでは? と不安になります。「これでいいです」と保護者から返事をもらっているのですが,遠慮しているように感じます。

保護者,原学級担任,特別支援学級担任の三者で互いに本音でその子らしさや課題を語り合いながら,個別の指導計画の作成を進めるにはどうしたらよいのでしょうか。

●気楽な気持ちで学校に来てもらうために… 《保護者の気持ちに寄り添って》



こんなことに心がけよう

○職員全員が自分から明るくあいさつを!

○連絡ノートや電話などで毎日の様子(よさ,新たな発見,驚き等)などこまめに連絡を!

○参観日には,見所を事前に知らせて!
(見所には,伸びてきているところや課題としているところを盛り込んで)

●話し合いをスムーズに進めるために… 《事前打ち合わせをしておこう》

話し合いの内容は?
どんな順に話を進めようかな?

①最近のモトキさんの様子
②モトキさんらしさって?
③伸びてきていると感じていること
④学習に対する保護者の期待
⑤これからの課題,願い
⑥今後の具体的な支援の方向

話し合いの役割分担は?

進　行:特別支援学級担任
記　録:原学級担任

話し合いで留意することは?

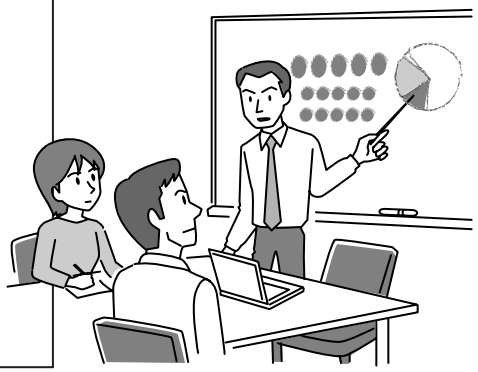
どの内容もできるだけ学校側から話題提供しましょう。

子どものよいところを取り上げると,保護者も話しやすくなってきます。

●保護者・原学級担任・特別支援学級担任による話し合いの例

〈こんなやりとりをしました〉

T1「モトキさんは友だちに対してやさしいですね。」
T2「3組(原学級)ではこんなことがあったんです。ナオさんがばけつの水捨てに行くとき,ばけつを一緒に持ってあげていたんです。」
母親「モトキは,三人兄弟の中で一番気がつくし,一番手伝いをしてくれるんです。本当にやさしい子だと私も思っています。」
T1「モトキさんの思いやりの気持ち,やさしさは宝ですよね。」
母親「そう言っていただいて,何かとてもうれしいです。」



話し合いを進めながら,原学級担任が,大きめの画用紙に話題になった要点をまとめていきました。保護者には,要旨をまとめていくことについてあらかじめ許可をもらい,書く内容を確認しながら書き込みました。話し合われていたことが,そのまま書き込まれていくので,保護者はモトキさんの伸びてきているところ・課題・今後の学習などについて一つ一つ確認していくことができました。

「原学級担任が要点をまとめて」

●話し合いの内容を共有するために… 《結果をまとめて知らせよう》

伸びてきているところ(保護者)

○お手伝いを兄弟で一番しています
→母親への思い,おもいやりの気持ち
○先生との連絡帳に関心が出てきました
→文字を積極的に読もうとする
○センター(特別支援学級)の様子を話します
→言葉で伝える
○とにかくおしゃべりが好きです
→人に伝えようとする気持ち

伸びてきているところ(学校)

○ありがとう!ごめんね!!が言えます
→物事の判断,友への思い(相手意識)
○自ら学習を始めます
→やることの理解,友との競い合い
○パソコンに関心があります
→文字,インターネットへの関心
○「センター(特別支援学級)へ行く時間だよ。」と告げる
→時間に正確

モトキさんらしさ(共通理解したこと)

○思いやりの気持ちがありやさしい
○自分の過ちを素直に認められる
○いろいろなことに前向き
○人なつこい

※いずれも抜粋

教育課題につながる保護者・担任の願い

○思いやり,やさしい気持ちを大切にして友だちとかかわりをもって生活してほしい。
○文章をより読め,書けるようになってほしい。　○計算がよりできるようになってほしい。
○簡単な計測(長さ・重さの計測,計量)ができるようになってほしい。

短期の学習内容と支援(抜粋)

○原学級の友だちとの学習　→友だちとのかかわりが確実にもてる小グループでの学習を基本とする。
○文字・文章にかかわる学習　→パソコンを利用し,日記,作文の作成(ひらがな入力,音読)をする

共に歩む

保護者が子どものことを語る時に,少しでも不安よりも期待や喜びが大きくなって欲しいと私たちは願っています。そこで,教師が作成した個別の指導計画を保護者に提示するスタイルから,保護者と原学級担任,特別支援学級担任が共に語り合い,共に作成していく個別の指導計画にするために日ごろから気軽に学校に来てもらえるような環境づくりを心がけました。また,その子らしさや伸びてきているところを支援に生かしていくことが必要です。

事例7 将来への願いの実現に向け,今を考えよう

～個別の指導計画の活用と将来を意識した生活づくり～

個別の指導計画を作り,それに基づいて指導を進めているタカハシ先生ですが,今の生活づくりが,中学進学を控えたトモオさんの将来にどう結びついていくのか不安に感じています。将来の可能性を少しでも広げていくために,今の生活づくりを充実させ,見通しをもちたいと願っています。

●トモオさんの成長の足跡をたどろう

○就学前の様子を知る

就学前

- 友だちと遊ぶより一人遊びの方が好きだった。文字や数に興味はなかった。
- 家の人に言わずに一人で外に行ってしまうこともあった。
- 素直で,友だちや保育士さんを困らせる事はほとんどなかった。

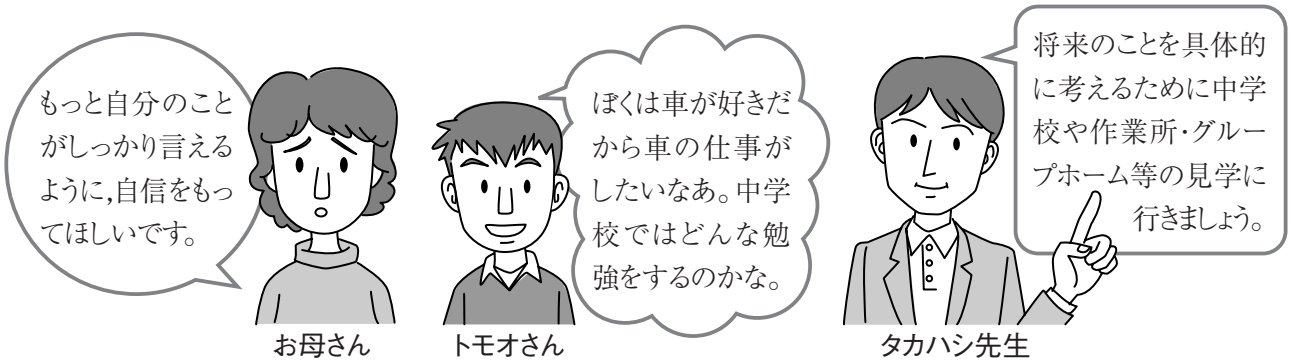
○個別の指導計画から,成長の様子を見返す（一部抜粋）

	日常生活の姿	指導内容
一年生	● 10までの数唱ができる。 ● 文字に興味はもっている。 ● 先生や友だちの名前を覚えにくい。 ● カズオさんと仲がよい。 ● 音楽を聴くことや歌うことが好き。 ● 話を素直に聞き,誘った活動に取り組むことができる。	● 数字の歌のパネルシアターを作って楽しみながら,10までの数字を覚える。 ● 学級の友だちや担任の名前を覚え,書き方（ひらがな）も覚える。 ● カズオさんと一緒に活動し,あそび・買い物・調理活動・野菜作りなど経験の幅を広げる。
三年生	● 1けたの加減計算はできる。 ● ひらがなの読み書きはできる。 ● 調理の材料の中から買いたい物を1つ決めて,一人で買い物ができる ● 毎日,チャボの世話ができる。 ● 同学年のシズオさんとのかかわりも多くなってきた。 ● 草取りなど作業に根気よく取り組む。	● 1年生の漢字学習をする。 ● 読み聞かせをしたり,簡単な絵本を読んだりして,お話を楽しむ。 ● 調理活動,先生対象のレストラン等の活動を通して,必要なものを買ったり,正確にお金を受け取ったりする。 ● 箱や板を使って,好きな車を根気よく作る。
五年生	● 簡単な四則計算ができる。 ● 2年生程度の漢字の読み書きができ興味をもって簡単な読み物が読める。 ● 一人で買い物に行ける。 ● 仲のよい友だちと一緒に,ルールのある遊びが楽しめる。 ● 嫌なことは「いや」と言える。	● おつりの計算や量や長さの測定等,生活の中で必要な学習について,算数や生活単元学習の中で学習する。 ● 単元により原学級の体育の学習に参加し,ゲーム性のある競技を友だちと一緒に楽しむ。

学習の積み重ねの中で、友だちとのかかわりが広がり、着実に成長

※教育相談の結果などの資料も検討し,まとめておきましょう。

●将来に向けた願いを語り合おう



●情報を収集しよう

学校参観

○中学校参観
- 特別支援学級
- 通常の学級

○特別支援学校
中学部を中心に

施設等参観

○障害者の方々が働く施設や作業所,事業所(企業)等
- 見学し,施設長さんや社長さんのお話等を聞く

※特別支援学級担任者会等での見学の機会が活用できます。

制度等を知る

○利用できる福祉サービス
- 「障害者自律支援のしおり」県発行
- 県社会部障害福祉課ホームページ等を参照

※保護者がよく知っていることもあります。

●中学進学に向けて,今の生活づくりを大切にしましょう(個別の指導計画の見直し)

＜願い・教育課題(抜粋)＞	＜指導場面・具体的指導内容(抜粋)＞
○今もっている力を更に伸ばそう ● 国語:2年生の漢字の読み書き習得 算数:4年生の学習終了 (本人の希望・実態から) ● やりたいこと,やりたくないことを学級の友だちや先生に言葉で伝えるようになる。	● 個別学習の時間を教科学習中心に設定。 ● 身に付いてきたことを生かした生活単元学習に取り入れる(レストランやお店の活動)。
	生活の中に,気持ちを聞く・要求を受け入れることで言える機会を作る。
○中学進学に向けて更につけたい力 ● 何事にも根気よく取り組めるので,丁寧にできるようになる。	はみ出さずに書ける大きさのマス目の原稿用紙を用意する。制作活動や作業では補助具を用意し,丁寧にできたときは称賛をする。
● 机とロッカーの整とんが一人でできるようになる。	自立活動の時間を確保。整とんの方法は返却場所を明示し,スモールステップで教えていく。

共に歩む

個別の指導計画を見直し,子どもの成長を振り返る機会を設ける中で,できるようになったことや頑張れるようになったことが確認できるようになると,将来に対する大きな励みになります。

将来に向けての願いを踏まえ,個別の指導計画に基づいて,ねらいや支援を明確にした生活づくりを積み重ねていくことにより今の生活が充実していきます。そして,将来についても,子どもの育ちを実感しながら,見通しをもって話し合うことができるようになるでしょう。

事例8 「個別の指導計画」を生かした中学校での生活づくり

～保護者と共に計画,評価を重ねながら～

4月に特別支援学級1年生として入級してきたサトシさん。これからの中学校生活に,本人も保護者の方も不安な様子でした。

担任のタケイ先生は,サトシさんのためにどのような学校生活をつくっていったらよいか考えました。サトシさんは調理活動が好きで,友だちと一緒に楽しく活動したいと願っていました。

●個別の指導計画の作成を通して,保護者と共に中学校生活を考えます

個別の指導計画は,サトシさんの学校生活づくりを進めるための重要なツールです。家庭訪問や参観日の機会等も利用し,保護者とサトシさんの状況を相談して,計画を修正しながら取り組みます。

●個別の指導計画をもとに,サトシさんの生活づくりを行いました

タケイ先生

まずサトシさんが見通しをもって生き生きと学校生活を送ることができるように生活単元学習を大切に考えました。時間数を確保し,好きな活動をもとにいろいろな活動を経験できるように配慮しました。また本人や保護者の希望で,できるだけ原学級の友だちと一緒に活動できるようにしました。

中学1年次の個別の指導計画より

可能性の芽

【人とのかかわり】大勢の友だちと一緒に活動し励まされると,本人なりに努力する姿がみられるだろう。
【作業的な活動】大好きな食べ物作りでは、見通しをもって繰り返し行ったり,スモールステップに配慮して行ったりすることで, 自分で出来ることが広がっていくだろう。
【知識理解】人と話すことが好きである。数学（算数）では式の意味の理解は難しいが,整数の筆算は得意である。

教育課題

1.自ら日課を確認し,一日の学習に見通しをもって取り組むことができる。
2.できそうなことに自ら挑戦し,「できた」という成就感を持ち,新たなことにも興味関心を広げる。
3.学級や同学年の友だちと活動する中で,会話を楽しむことができる。

合わせた指導及び教科領域別指導等

1学期　担任の願いと支援の方向（番号は教育課題に対応.）

		願い	支援の方向
特別支援学級での学習	生活単元学習・生活	1.生活単元学習の活動を張り合いに見通しをもって生活を送ってほしい。 2.調理活動や作業的な活動を意欲的に行う中で,自分でできることを広げてほしい。	1.生活単元学習の時間を,まとまりをもって確保したり,週日課を黒板に書いて分かりやすくしたりして,見通しをもって取り組めるようにする。 2.調理活動を中心にお金の計算や手紙を書く活動など,関連した様々な活動も位置づけて単元化するとともに,できることに配慮した工夫をして,もっとやってみようとする意欲を培う。
	教科学習	2.生活に根ざした学習や小学校の復習で,基礎的な力をつけてほしい。	2.先生の名前や教科名を漢字で書くなど,生活で必要な学習を進める。 2.得意な会話や具体的な活動を手がかりに,基礎的な理解力がつくようにする。
原学級での学習		2.自分のできそうなことに前向きに取り組んでほしい。 3.友だちと協力しながら,活動を楽しんでほしい。	2.授業の中で活躍できるように操作的な学習をとり入れるなど,原学級や教科担任と連絡を取り合って,適切な支援ができるようにする。 3.教科学習でも,グループ活動でかかわって学習する場面を設定してもらう。

特別支援学級での学習内容		原学級での学習内容	
生活単元学習	●時期や生徒の希望でテーマを決め,1～2ヶ月間活動する。中心となる活動は主体的な活動になるよう支援し,教科的な活動など多様な活動も関連させて単元化する。	教科・領域等	●社会,理科,音楽,美術,技家,保体,行事など ●一緒に活動できることを主な目的とし,できる範囲で教科のねらいに応じて学習する。
教科学習	●漢字プリント,算数ワーク（「もうちょっと頑張ると100点とれそうだ」と意欲がもてる内容,宿題でも毎日やる。） ●原学級での学習から（理科,社会の予習や復習を行う）		

●計画（Plan）→活動（Do）→評価（See）を繰り返し行って,より適切に生活を整えていきます

- 学期ごとの願いにもとづいて単元の願いや学習内容を設定し,支援方法を工夫しました。
- 生徒のよいところや支援の内容が書いてある個別の指導計画の“日常生活の姿”や“可能性の芽”には,学習や活動に意欲的に取り組むための支援のヒントがあるので参考にしました。

●学期末に,学習の様子から評価を行い,個別の指導計画を見返して通知票に掲載しました

- 通知票に個別の指導計画（各学期）を添付し,懇談会で保護者に見ていただき,その学期の生徒の様子について話をしました。また次の学期や次年度の願いや支援の方向を一緒に考えました。
- 原学級で学習している教科などは,教科担任にできたこと,頑張ったことをコメントしてもらって通知票に載せました。

保護者と話し合って個別の指導計画を作るので,通知票に掲載することは大切なことです。その際,保護者の気持ちに寄り添い,内容や表記の仕方に注意する必要があります。

サトシさんの 1学期 個別の指導計画の評価（通知票）より

1学期の様子・今後の方向（番号は教育課題に対応）

特別支援学級での学習	生活単元学習・生活	**1.**自分から週日課や明日の予定を確認しながら調理活動などを楽しみに生活をすることができました。部活や原学級での学習に自分から向かうようになってきました。中学校生活に馴染んできたようですね。 **2.**調理活動は全過程を一人でおこなようにしました。クッキー作り（30個）やクレープ作り（12個）では,秤を使ったりクレープを薄く焼いたりと一人でできることが増えました。電卓を使って会計も行いましたが,注意深く正確に入力できました。更にいろいろな活動に意欲的に挑戦していくことを期待しています。
	教科学習	**2.**学習プリントでは,“80点程度とれる内容”を意欲をもってできました。数量的なとらえは難しいので,お金などを使って具体的に学習してきました。「“合わせて”と言う時には足すんだよ。」など言葉で覚えるようにすると混乱せずに学習できるようになってきました。計算ドリルなどは意欲的にできました。
原学級の学習		**3.**行事の遠足やキャンプなどクラスの一員として係活動をしたり楽しんだりできました。大縄跳びは友だちの励ましで跳べるようになりました。人間関係は,学習やその他の活動を通して,小学校時代の仲間から広がり始めています。

中学の国語や数学の勉強がないので心配です。

サトシさんのお母さん

タケイ先生

サトシさんは,生活単元学習の中で実際の場面を通して,国語や数学的な学習をすることで,生活に生きて働く力になっています。2学期は,特別支援学級の中でも教科の時間を充実させて行こうと思っています。

共に歩む

多様なニーズをもつ特別支援学級の子どもの生活を充実するために,「個別の指導計画」を作成し,「生活づくり」を行うことが大切です。サトシさんは,そのような生活づくりを行う中で,意欲的に生活しながらできることを広げ,苦手な学習もチャレンジすることができるようになりました。個別の指導計画を生かすためには,保護者との連携がポイントになってきます。日々の連絡の取り合いも大切ですが,個別の指導計画を「通知票」に位置づけ,家庭訪問,懇談会,連絡帳などで話し合いを重ねながら,願いや支援の内容を共通理解していくようにしましょう。

事例 9 子どもの願いや課題に合わせた教材の工夫

～音楽での学習を通して～

じっとしていることが苦手で,自分の思いを言葉で伝えようとすることが少ないマサオさんに対して,ハラ先生は効果的な学習が仕組めず悩んでいます。子どもたちの願いや課題に合った学習をしたいと考えていますが,具体的にどんな学習を考えていったらよいのでしょうか。

●マサオさんの実態と教育課題

マサオさんの実態

じっとしていることが苦手で,授業中もすぐに席を立ち,独り言を言いながら教室の中をぐるぐる回っていることが多いマサオさん。担任のハラ先生に,好きなキャラクターの名前を言って話しかけてくることはあっても,自分の気持ちを伝える言葉を,なかなか話してくれません。

マサオさん

教育課題（抜粋）

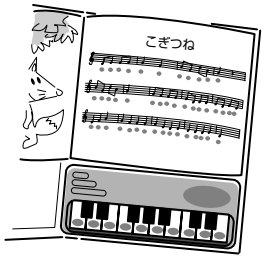
- 集中して取り組める活動や時間を増やす。
- 自分の気持ちを身振りや言葉で相手に伝えるようになる。

活動に夢中になれる状態にならないと,不安になりやすいのかな。マサオさんが,夢中になれる活動はないだろうか。

自分の気持ちを伝えたくなるような,切実感がもてる活動が必要なんだろうなあ。

ハラ先生

●どんな学習内容だったら,マサオさんが集中して取り組むことができるんだろう。



マサオさんにはお気に入りの絵本がありました。それは,絵本についている鍵盤にドは赤,レは青･･･というように,色別のシールがはられていて,楽譜の方も鍵盤と対応して,ドは赤,レは青と,色で区別して表されているものです。休み時間には,棚からこの絵本を取り出してきて一人で弾いていることがよくありました。そんなマサオさんの姿を見て,ハラ先生は,ふと「マサオさんは,音楽が好きなんだよな。この絵本のように色や記号で区別したら,もっと他の曲や楽器でも楽しんで集中して取り組むことができるのではないだろうか。」と考えました。

音楽での学習で、マサオさんが集中できそうなことを考えてみよう。

音楽の先生にも相談にのってもらいながら,特別支援学級のみんなで一緒に楽しむことのできそうな合奏の仕方を考えてみました。

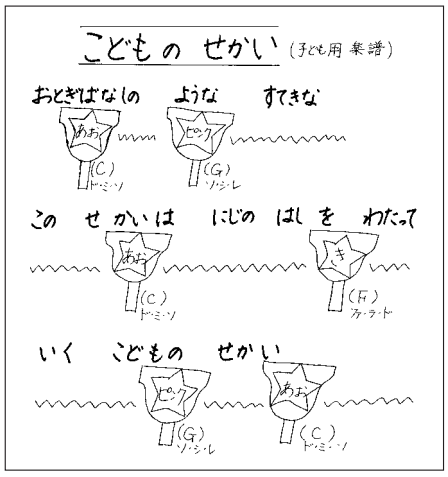
●和音を色別に示して,合奏をしてみよう。

選曲について→アレンジでの工夫

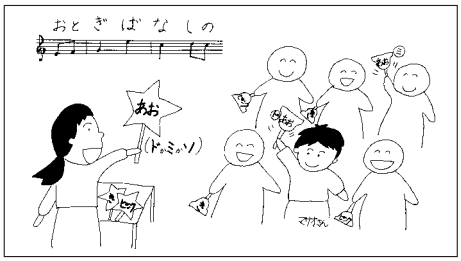
- テンポが速すぎず,和音があまり変わらない曲の方が,ハモった響きを感じることができ易いだろう。
- 和音の種類が多くなると難しくなってしまうので,3種類だけの和音で合奏ができるように,音楽の先生に和音を付け替えてもらおう。

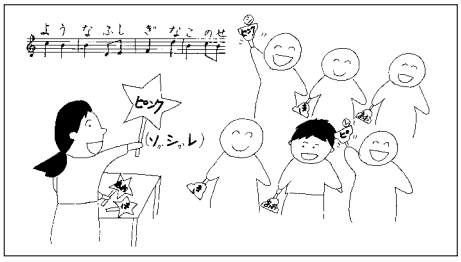
楽器選びについて→ハンドベルを使うことのよさ

- ハンドベルは,金属の部分にだけさわらないようにすれば,どのように持っても簡単に,美しい音を出すことができます。
- 音の出し始めがそろわなくても,和音の種類さえ間違わなければ,メロディーとは必ず合うので 容易に和音の響きを楽しむことができそうです。



～メロディーは,音楽の先生に
ピアノで弾いてもらいました～





マサオさんは,間違えずにできてとてもうれしそうでした。それからハンドベルを一本ずつ増やし,最終的には,三本のハンドベルを曲の中で鳴らし分けることができるようになりました。

マサオさん

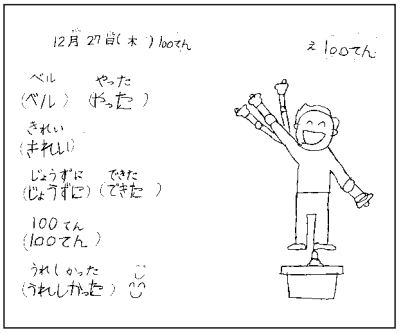
じっとしていることが苦手なマサオさんでしたが,この曲のハンドベルの練習では,まるで別人のようでした。繰り返し練習する中で,その場を離れず,前に立って指し棒で音を示すハラ先生の方をじっと見つめる姿が見られました。そして,最後まで間違えずに3色のハンドベルを鳴らすことができた時,前で音を示していたハラ先生のところへ「ひゃ・く・て・ん」と言いながら,ハイタッチをしに来たのです。これは,マサオさんなりの喜びを表す言葉でした。

●どうしてマサオさんは,この活動で変わったのかな。

- 和音を色別に示して,3本のうちのどのハンドベルを鳴らせばよいか分かりやすく示せたことがよかったのだろう。
- 間違えないでできるとメロディーとうまく合って,そのハモった響きがきっと心地よかったのだろう。
- 集中して取り組み,達成感がもてたからうれしいという気持ちを伝えたくなったのだろう。

●自分の気持ちを伝えようとする姿が少しずつ増えていったマサオさん～絵日記,日常生活への広がり～

ハンドベルでの合奏で,思わず,「ひゃ・く・て・ん」と言いながらハラ先生のところへハイタッチをしに来たマサオさん。帰りの会の前に,先生と一緒に毎日書いている日記で,「うれしかった」という言葉をハラ先生がノートに書くと,～そうなんだよ～というように,うん,うんとうなずくのでした。こんなやりとりを繰り返していた数ヶ月後のある日,学級でボウリングをしていて,マサオさんがストライクを出しました。思わず「う・れ・し・い」と言いながら,ハラ先生のところへハイタッチをしに来たのでした。達成感がもてる活動を仕組んだことで,コミュニケーションの面でも成長を見ることができました。



共に歩む

子どもの願いや課題に合った学習内容を決め出すことは大変なことで,日々悩むことが多いものです。1つの題材を取り上げるたびに,子どもの姿を見つめ直し,子どもの願いや課題に合わせて試行錯誤し,教材を工夫することで,具体的な支援の方向が少しずつ見えてくることもあります。ここでは,音楽での学習からアプローチしたものを紹介しました。自分の目の前にいる子どもの実態,興味関心を洗い出し,その子にあった支援を積み重ねながら,「できた」→「気持ちよかった」→「うれしい」という達成感や成就感を,教師自身も子どもと共に感じながら授業づくりを進めていくことの大切さを感じました。

事例10 その子に合った視覚的な支援のヒント

～子どもの意図をくみ取ることを大切にしながら～

言葉でのコミュニケーションが難しい子どもが,自分の気持ちを理解してもらえずにパニックに陥ったり,悲しい思いをしたりすることがあります。特別支援学級担任のユカ先生もテツヤさんのそんな姿を見て悩んでいました。

なんとか自分の意思を表現できるようにしてあげたいと考えていたユカ先生は,以前参加した研修会で「有効だ」と聞いた写真や絵カードを使って視覚的な支援を行ってみました。どのようなやり方がいいのか自信がもてなかったので,思い切って特別支援学級担任者会の先生方に相談してみました。

●ユカ先生の悩み

●特別支援学級担任者会での相談

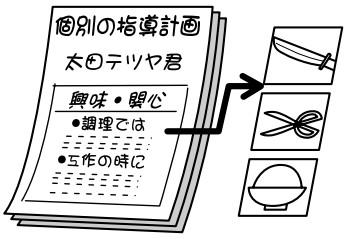
特別支援学級担任者会で,実際に絵カードや写真などを使った視覚的な支援によって効果をあげているアオヤマ先生に相談してみることにしました。

ユカ先生は,これまで実践したことを次のように整理しました。

○デジタルカメラで校内の写真を撮ったり,授業の内容を描いた絵カードを用意したりして,日課に合わせて黒板にはり,毎朝確認をする。
○新しい学習内容の時は,手順や道具の使い方などを図と写真で順序立てて示すようにする。
○動作や気持ちを表す絵カードを用意して,何かしたい時やこちらがしてほしい時は,その絵カードを指差して示すようにする。

ユカ先生 日課の確認には,それなりに役立っています。これまでは,毎日のパターンと違う活動が入ったことを言葉で伝えても,うまく理解できないようでしたが,絵カードで示すことで日課が変わったことが分かりやすくなったみたいです。でも,活動を促すときに絵カードを使いたいと思ってもうまくいきません。単に絵カードを示しただけでは指示が伝わらないようですし,活動を嫌がっているように感じるときに,彼の気持ちを示していると思われる絵カードを指さして気持を教えてほしいのですが,使ってくれません。

アオヤマ先生 テツヤさんが好きなことって何かな？個別の指導計画を見直してみるといいよ。好きなこと,得意なことをまとめてあるはずだから,それを大切にしましょう。



テツヤさんの好きなことは,調理や工作です。そういった場面で絵カードや写真をコミュニケーションの手段として活用することが,テツヤさん自身が活用していこうとするきっかけになるのではないかというアドバイスです。

例えば「○○を持ってきて」と指示を出す時に,言葉と一緒に絵カードを提示するというのは分かりやすい支援方法です。しかしそれが指示のためだけの手段になってしまっていることがあります。ともすると「○○しましょう」「○○してはいけません」という言葉のかわりにカードや写真を指差すだけの使い方になってしまいやすいのです。

アオヤマ先生 嫌な場面ばかりで,絵カードを使っていると,絵カード自体を嫌いになってしまうかもしれないね。買い物や調理など,テツヤさんが得意であったり好きであったりする場面でまず使うことが,テツヤさんが主体的に活用しようとするきっかけになると思うよ。

大切なのは「理解」や「表出」のために使うことです。テツヤさんが困っていることは,きっと自分が「好きなこと」「やりたいこと」がうまく通じないからではないでしょうか。そうであれば,視覚的な支援も,彼の立場に立ってやりたいことが伝わるために使うことがポイントとなるはずです。

●具体的なヒント

更に、具体的な説明をしてもらいました。 次ページのコラム参照

今は既成のシンボルセットがたくさんあるので,参考にして絵カードも自作できますよ。

スケジュール確認はもちろんだけれど「○○したい」という意思表示がしやすいように,よく使う語いをまとめてカテゴリー毎にページを区別したブックやボードを準備すると使いやすいかもしれませんよ。

- ブックやボードはいつでも使える様に,常に身近に準備しておきましょう。
- 絵柄を統一して見やすくしたり,使う頻度の高い語いが目立つように色を変えたりするなどの工夫をしましょう。
- ブックやボードは子どもの変化や状況に合わせて語いを増やしていくことも大切です。でも,ごちゃごちゃしてきたら,作り直すことも大事ですね。パソコン,カラープリンターを上手に活用しましょう。

実物を見せてもらい参考にしながら,ユカ先生は自信をもって取り組み始めました。

共に歩む

視覚的な手だてが有効と言っても,その具体的な導入手順は意外に難しいものです。実際はその子の障害の特性によって千差万別で,写真や絵カードを使えばいいというものではありません。

担任者会の先生方のアドバイスにより,「絵カードを使うことありき」ではなく,「好きな活動」や「言いたいこと」がある場面で,タイミングよく視覚的な支援を導入していくことがコツだと気づいたユカ先生は,自信をもってテツヤさんの支援に取り組むことができました。

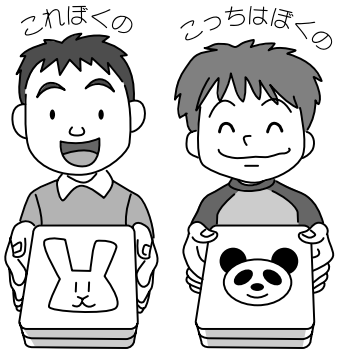
その子に合った視覚的な支援を探り,子どもにとって必要感のあるコミュニケーションの手段になるようにしていきましょう。

コラム

視覚的な手だてとコミュニケーション

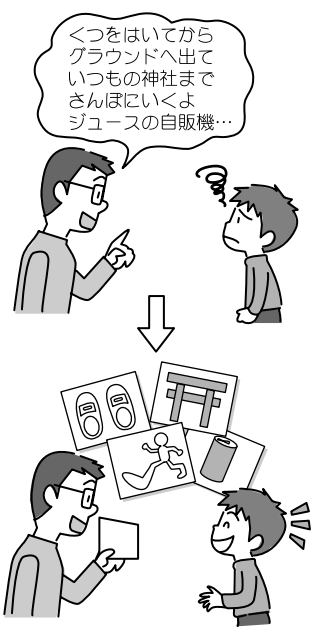
視覚的な手だてとは何でしょう？

学校の中を見回すと，視覚的な手だてを使った支援方法の工夫がたくさん見られます。特別支援学級では，A君の学習セットとB君の学習セットを区別するために，それぞれに好きなキャラクターのシールがはってありませんか？ また，おそろいの上履きで，自分の靴が分かりにくいからと，おうちの方がワンポイントのマークをつけてあげているかもしれません。



これらの身近で簡単な工夫も，視覚的な手だてなのです。絵だけではありません。理解やコミュニケーションを助けるものであれば，身振りや手振り，文字さえも視覚的な手だてなのです。

なぜ視覚的な手だてを使うのでしょう？



例えば自閉的な傾向のある子どもたちで，実用的な話し言葉をもたない子がいます。そういった子どもたちには，話し言葉に代わるコミュニケーション手段を用意したいですね。話し言葉の理解は苦手でも，見て理解することは得意だという特徴があります。ある程度話し言葉を理解できる子でも，見て理解する方が分かりやすい場合が多いようです。苦手な話し言葉のみでなく，得意な見て理解する方法を積極的に用いていく方が，全体としてコミュニケーションの力は伸びていきます。

話し言葉のような音声情報は，時にあいまいで，また抽象的で，その場で消えてしまうものです。しかし，絵カードや写真といった視覚的な手だては具体的で，その場に残ります。抽象的なことやあいまいなことが苦手な自閉症の子どもにとって，絵カードや写真の方が確かな情報であり理解しやすいのです。

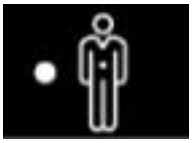
視覚的な手だてを使ったコミュニケーション支援の方法は？

視覚的な手だてを使ったコミュニケーション支援の方法には，実物，写真，具体的な絵，シンボル，文字などがあります。これを使えば必ず子どもに有効といった定石はありません。それぞれの子どもに合った，使いやすい物を選びましょう。まずは使ってみることです。場面や状況に応じて使い分けてみたり，一緒に使ってみたりして，うまくいかないところは修正しながら進めます。その手だてが有効かどうかは，子どもが教えてくれるはずです。

シンボル一つとっても様々なものがありますが,代表的なものを3つ紹介します。

PCS

◆**PCS**(ピクチャー コミュニケーション シンボル)はとりわけポピュラーなものの一つです。米国ではPCSを用いたコミュニケーション機器，ソフトウェア，解説書やビデオなどが多数開発されており，日本向けにも販売されています。


PIC

◆**PIC**(Pictogram Ideogram Communication=ピック)はカナダで開発され，その国の文化に合わせてデザインを変えた各国版が開発されています。「日本版PIC」も存在し，カード，シール，ソフトウェアなど様々な商品が発売されていて，入手も容易です。経済産業省の「JIS絵記号」もこれを参考にしています。

PICOTシンボル

◆**PICOTシンボル**(Pictorial Communication Tool=ピコット)は，スペシャルオリンピックス世界大会・長野大会の公式コミュニケーションブックに採用されたことで広まりました。信州大学教育学部，同工学部，上田養護学校が共同で開発した長野県発のコミュニケーションシンボルです。電子データとして活用できる形で無償で公開されていますし，約600語のシンボルを収録したコミュニケーションブックとしても出版されているので，導入しやすいことも特徴です。

「どのシンボルが定番なの？ 学校だけでなく社会に出てからも，どこでも使えるスタンダードなものは何？」という問い掛けがあります。残念ながら「これを覚えれば大丈夫」というものはありません。その子の知覚の特性が様々なのですから「世の中の定番」ではなく「その子にとって分かりやすいもの」を取り入れていくことが大切なのではないでしょうか。

実際にどのように使えるのでしょう？

タツヤさんは放課後の言葉の学習で，パソコンに表示したシンボルを見ながら担任やボランティアの先生と話をします。彼は五十音を中心にしたコミュニケーションボードも併用していますが，よく使う単語は，シンボルのほうが，一文字ずつ指差していくより，早く正確に意味伝達が行えるので，両方を併用しているのです。

マモルさんは一つの活動から次の活動への移行がスムーズにいかない生徒さんです。担任の先生は毎朝，彼のために作った専用スケジュールボードを確認します。この特徴は，その週の予定全部が見渡せるようになっていることです。「昨日はマラソンの後，すぐに着替えて作業に行けたね。今日も同じようにまずマラソンをして…」というように確認していくことにより，自己評価や意欲付けも同時に行えています。苦手だった教室移動も少しずつ早くなってきています。

視覚的な手だてをうまく活用して子どもたちのコミュニケーションの幅を広げていきたいですね。

事例11 子どもの主体性を重視した「総合的な学習の時間」の工夫

～「つける力の明確化」と「学習展開の工夫」～

中学校の特別支援学級担任のサトウ先生は「総合的な学習の時間」が単なる畑や花壇づくりで終わってしまうと悩んでいます。「体験的な学習を取り入れながら生徒が自ら学び自ら考える力を育てていく時間にしたい」と願ったサトウ先生は，生徒につける力を明確にし，それに照らしながら授業を進めてみました。また，生徒が具体的に課題をイメージできるような学習テーマの設定や学習展開の工夫を考えました。

●単なる花作りで終わってしまった「総合的な学習の時間」

サトウ先生の「総合的な学習の時間」への願い

- 特別支援学級で管理している畑や花壇を生かしたい
- 生徒が花や野菜づくりに興味関心がある
- 体験的な学習を取り入れたい

→

- 黙々と作業に打ち込んだ
- 花や野菜が作れるようになった
- 楽しく作業をしていた

↓

生徒にとって自ら学び自ら考える力が育つ「総合的な学習の時間」だったのか?
「総合的な学習の時間」で生徒につける力を明確にしなければ…

●生徒の“可能性の芽”を生かし、総合的な学習の時間でつける力を明確にする

タカシさん(中3)の「可能性の芽」

- 興味をもったことには自分から積極的に取組もうとする。
- 認められるとよい方向に努力しようとする。
- 体験を通すとイメージが膨らみ自分からアイディアを出す。

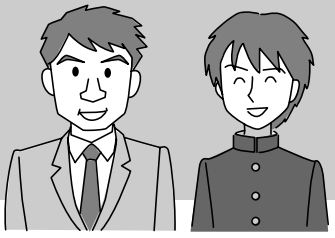
情障学級タカシさん(中3)
自閉傾向

「総合的な学習の時間」でタカシさんに「つける力」

評価の観点	つける力	「バーチャル海外旅行」の学習における具体的なつける力
課題設定力	調べたいことを決め出す	・行ってみたい国を決めて,旅行するとしたらどんなことを調べたいか見つけられる。
情報収集力	必要な情報を集められる	・本やインターネットを使うことができる。 ・野菜の作り方や料理について調べられる。
コミュニケーションする力	仲間と一緒に協力する	・友だちと野菜を育てたり調理実習をしたりする。 ・交流している養護学校のカオルさんの気持ちを考えることができる。
発信する力	自分の考えをまとめて発表する	・文化祭で自分の活動をまとめたり発表したりする。 ・発信を通して頑張った満足感を味わう。

■学習テーマ「バーチャル海外旅行」とは?
自分が行ってみたい国を決め,その国に旅行したつもりで調査活動や体験的な学習を行います。

●「バーチャル海外旅行」の実際（タカシさん(中3)の学びを中心に）

子どもの主体性を重視した展開	タカシさん（中3）の活動と思い	指導と評価の工夫
	学習テーマ「バーチャル海外旅行」	
①課題を設定し,学習の見通しをもつ。 ・行ってみたい国はどこ? どうして? ・その国に旅行するとしたらどんなことを調べたい? どうやって調べたらいい? ・その国の代表的な料理をつくってみんなで試食しよう。	・「ぼくの憧れの国はハワイだ」とすぐに決めて,ハワイの気候,有名な観光地,ハワイの食べ物等をはりきって調べ始める。 ・N旅行会社に電話をしてパンフレットをもらいに行く。インターネットや本を使ってハワイについて調べる。 	あらかじめ総合的な学習の時間でつける力を具体的な子どもの姿で設定する。授業ではその姿と照らしながら支援をする。 生徒が興味関心をもち,具体的な学習方法がイメージできるテーマを設定する。
②追究時間を十分確保する。 ・使う野菜を畑で育てよう。いろいろな野菜の育て方を調べよう。 ・畑でとれた野菜を使っての調理実習。技・家の実習が活用できる場面。カオルさんと仲良くつくろう。 ・試食し合い感想を交換しよう。	・ハワイの代表的な料理のグァバハンバーガーを作るため,材料に使うレタスを畑で作りたいという願いをもつ。「レタスの苗を買うお金を自分たちで作れないかな?」とアイディアを出し,育てている花の苗を保護者に売る販売活動を行う。 ・苗を購入し,水やり,草取り,支柱立て,仲間と協力し合い,夏休み中も苗の世話を続ける。 ・いよいよ収穫を迎える。自分たちで育てた新鮮なレタスを使っての調理実習は交流している養護学校のカオルさんを招待して行う。(全2回実施)	追究場面では体験的な学習を中心に追究時間を十分に確保し生徒の発想を大切にする。
③ついた力を振り返る。 ・今までの学習を写真や絵でまとめよう。 ・活動の様子をパワーポイントを使って文化祭で発表しよう。	・文化祭に向け,学習したことを熱心にまとめる。ステージ発表では心配しながらも全校の前で発表できる。『ステージで発表できた。今までがんばってきてよかった。(感想)』 	学習したことを振り返り,ついた力を自覚する場面を設定する。 

共に歩む

特別支援学級の「総合的な学習の時間」は,調べ学習や体験的な活動だけで終わってしまい,生徒にどのような力がついたのかあいまいになってしまうことがあります。サトウ先生は,あらかじめ,「総合的な学習の時間」でつける力を具体的な子どもの姿で設定し,授業ではその姿と照らしながら支援をしました。その結果,生徒は自ら課題を見つけ,学習内容を広げていく学びを見せました。生徒の主体性を重視した学習を展開することはもちろんですが,つける力を明確にし,生徒が自分の学びの高まりを感じられるような「総合的な学習の時間」を目指したいものです。

事例 12

教室環境の工夫

～子どもの悩みに寄り添うことを通して～

学校生活になじみにくい子どもが，各学校にはいるものです。原因は多岐にわたり簡単に解決できるものではありません。ユウコさんもそんな子どもの一人です。最近、学校を休みがちになってきました。元気もありません。そこで，ユウコさんをよく知る人たちを集めて支援チームを結成し，学校生活の様子や教室環境について話し合って，解決策を探ってみました。

●ユウコさんの悩みを聞く

情緒障害特別支援学級（以下情緒障害学級）に在籍するユウコさんは,最近,学校を休みがちになってきました。このところ,元気もありません。ユウコさんが悩んでいることを聞いてみました。

同じ学級のミエさんがいつも騒いでいてうるさい。注意しても聞かないし，掃除もあまりやらない。そういうことが気になっちゃう。
学校にいると，すごく疲れるから，朝，学校に行く気がしない。
勉強はしたいけど，行きたくない。

● 支援チームを結成し,解決策を探る

【テーマ】ユウコさんが感じているストレスは,何によるのか。また,その解決法は何か?

ユウコさんの様子

○ミエさんが散らかしたものを一人で片付けようとしている。
○ミエさんの言動をとても気にしている。
○ミエさんの言動を聞くと，正さずにはいられないようだ。でも，直せるわけではなく，それがストレスになっているのではないか。

解決策1

●ミエさんも交えて，教室でどうしたら二人が気持ちよく過ごせるか話し合い，二人の活動スペースを分けたらどうか。
●教室内にそれぞれのスペースをつくり，そこに入らないようルールを決めたらどうか。

【支援チームの構成】
・特別支援教育コーディネーター
・情緒障害学級担任
・知的障害特別支援学級担任
・情緒障害学級の教科担任
・原学級担任

ユウコさんの様子

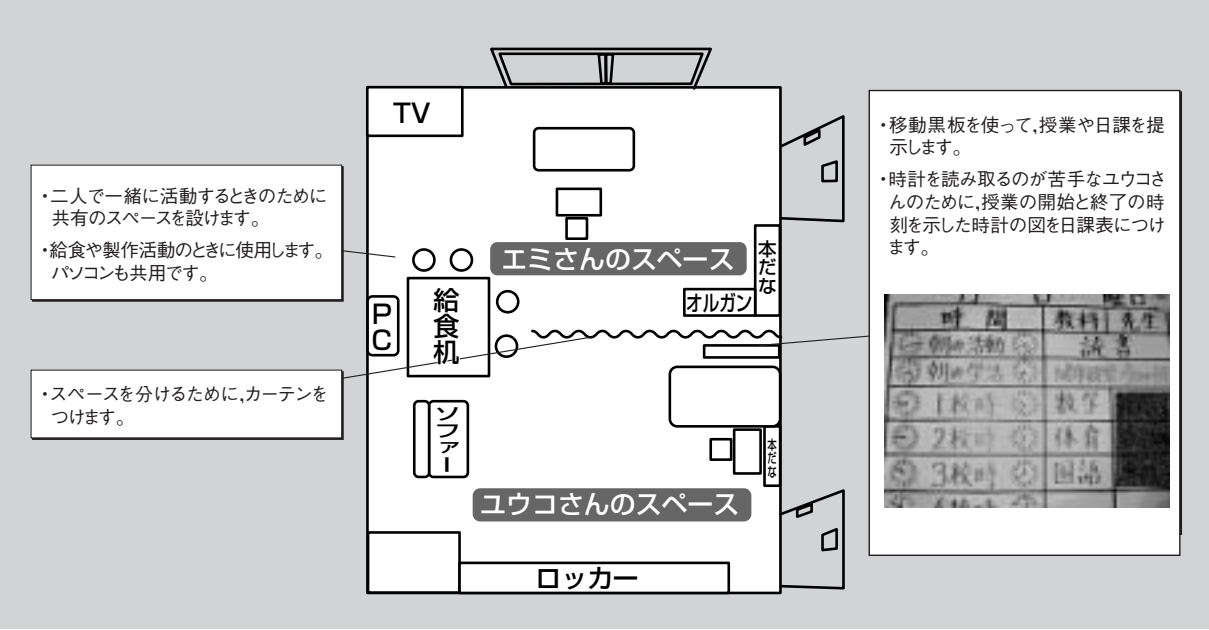
○「休憩してもいいよ」と言っても教室の中で所在無げにしている。そうしていると，結局ミエさんの世話を焼き，けんかになってしまう。
○「休憩してもいいよ」の声がけだけでは，ユウコさんは休むことができないようだ。

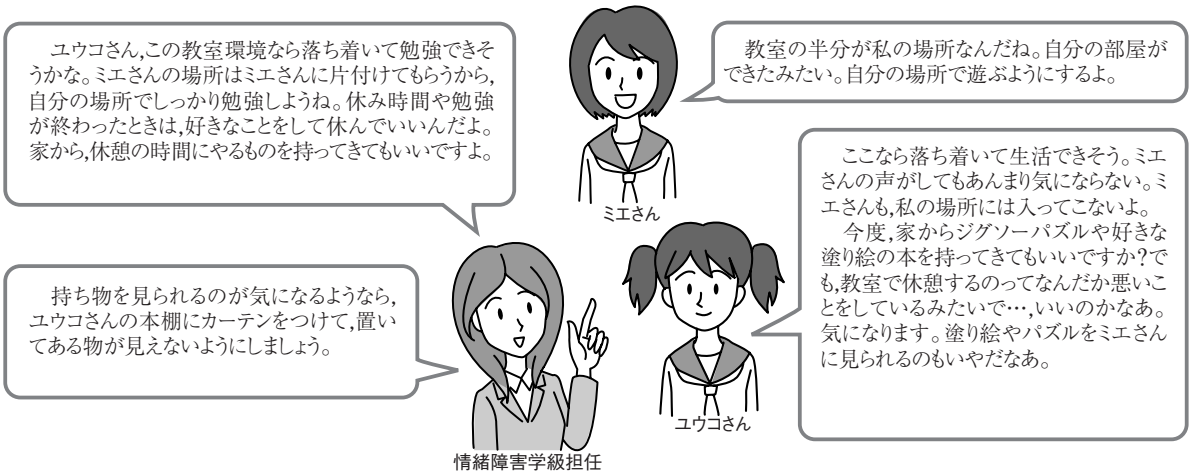
解決策2

●休憩のときにすること（ユウコさんが好きなこと）を決めておいて,教室でできるように準備したらどうか。パズルやビーズのブローチ作りができそうだ。
●生真面目なユウコさんには,休憩する時間や場所をきちんと決めておいた方がよさそうだ。

●教室のレイアウトを変更

話し合った解決策に基づいて,ユウコさん,ミエさんと共に教室の模様替えを提案しました。

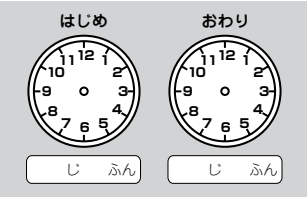




教室環境を工夫したことによって,ユウコさんは徐々に休むことが少なくなってきました。

しかし,家庭から「登校するとぐったり疲れて帰宅します。」と連絡がありました。用意されたプリントをすべてやろうと頑張りすぎていたようです。

提示する課題の量を調整するとともに,右のようなカードを用意しました。教師とともに相談しながら学習や休憩の時間を決めてカードに記入し,それにしたがって取り組むようにしました。



共に歩む

様々な要因で学校生活になじめなくなる子どもがいます。そうした場合，その子の悩みに寄り添い，その子について複数の目で検討して，学校生活を整えていくことが重要です。

子どもの実態によっては，本事例のように教室内のスペースを分けたり，別室を利用したりすると思いますが，教師の目が届きにくくなるので，それを補う手だてを工夫して取り組みましょう。また，かかわる子どもの納得や了解を得て進めることが不可欠です。

事例13 時間割の改善〔中学校〕

～生徒の力を伸ばす時間割づくり～

初めて特別支援学級の担当になったり，新たな学校に赴任したりしたときに，すでに設定されていた時間割に苦労することがあります。例えば，一つの教科を複数の教科担任が担当する，授業が細切れに配置されているなど，生徒にとっては授業の見通しがもちにくくなりがちです。

転勤したばかりのオオヤマ先生とナカムラ先生も，時間割を改善したいと悩んでいます。

※本事例では知的障害特別支援学級を知障学級、情緒障害特別支援学級を情障学級と表記する。

知障学級担任
オオヤマ先生

通常の学級の授業に行く時間が多いなあ。
知障学級の教科担任は7人。数学を担当する先生が2人もいる！

保護者

知障学級の数学の先生は２人もいて，先生によって内容や教え方が変わらないかしら。
子どもが分かりづらいのではないかと心配しています。

情障学級担任
ナカムラ先生

生徒たちは学年・学級が様々で，原学級の学習に参加する子もいるから，なかなか全員がそろわないよね。

そして，
授業がスタートしてみると・・・

情障学級　ジュンさん

国語の時間は，毎時間違う先生が来るよ。前の時間と同じことをやることもある。
先生に慣れるのが大変だよ。

教科担任　ハラ先生

私は数学を週1回教えているのだが，週１回だけでは生徒の学習意識が途切れてしまうので，授業しにくいなあ。

このままでは，生徒の基礎的な力がつかないなあ。
それに，落ち着かないせいか最近トラブルが多いなあ。

1 校内の先生に相談し教科担任者会を開きました。

先生の入れ替わりが多すぎるから落ち着かないのね。特別支援学級の教科を担当する先生たちの持ち時間をもう一度見直して，各教科，できるだけ一人の先生が担当できるよう検討しましょう。

特別支援学級で抱えていた問題

- 固定式の時間割だと生活単元学習の計画が立てやすいと思うが，スライド式の時間割だと計画が直前になってしまう。
- 一つの教科を複数の教科担任が担当する場合，学習内容の引き継ぎや指導内容・指導方法の検討がしにくく，それぞれの先生による違いに生徒が戸惑ってしまうことがある。

検討した結果を校長先生，教頭先生に伝えるとともに，時間割係，特別支援学級担任，特別支援教育コーディネーターで改善案を検討して，職員会に提案しました。持ち時間数が増える先生もいましたが，特別支援学級の生徒たちが落ち着いて学習できる状況に整えるために，すべての先生方が理解してくれました。後期の時間割のスタートに合わせて変更しました。

2 そして,2年目に向かう春休み

春休み，次年度の時間割をつくる作業が行われます。これまでの経緯から，特別支援学級からの要望を配慮し，優先的に時間割づくりが始まりました。

特別支援学級からの要望

①特別支援学級の教科担任の人数を少なくする。
・週に１回しか会わない先生と学習を積み重ねていく事が困難なため。
・例えば，Ａ先生は知障学級２時間，情障学級１時間担当するのではなく，知障学級を３時間担当するというように整理し，担当する時間を細切れにしないようにする。

②できるだけ，特別支援学級担任が通常の学級の授業を持つ時間を少なくする。
・個別支援のために授業補助に入ったり，TTで学習を進めたりするため。

3 その他にもこんな工夫ができます

特別支援学級担任ができるだけ通常の学級の授業を担当しないように，また，生徒の原学級への授業参加に配慮してもらうようにお願いしました。

① 学級としてまとまった時間を組むために…

週に1回，連続した時間を設定しました。

NO		9	10	11	12	**13**	**14**	**15**	16	17	18	19	20		23	24	25
知障学級		国語	数学	理科	体育	**生単**	**生単**	**生単**	道徳	英語	音楽	社会	国語		理科	数学	英語

②「個別の指導計画（短期）」に基づいて，教科担任と教科の目標を共通理解し，指導内容を相談して決めるようにしました。

シリーズ参考ページ
第１集　28ページ～

③原学級の授業に参加する可能性のある時間の特別支援学級の授業は，特別支援学級担任の授業にする，その生徒にとって欠かせない授業を設定しないようにするなどの配慮をします。

NO		9	10	11	12	13	14	15	16	17	**18**	19	20		23	24	25
教科３Ａ		国語	数学	英語	体育	理科	社会	英語	道徳	理科	**音楽**	社会	国語		理科	数学	英語
情障学級		数学	美術	理科	作業	数学	数学	英語	道徳	国語	**作業**	理科	数学		国語	英語	社会

原学級の音楽を受けたいジュンさんの願いを基に設定しました。

音楽会のことが気になっていたけど，情障学級の教科の授業を休むのは心配だったし…。ナカムラ先生の作業の時間にしてくれたから行きやすくなったよ。原学級に入りにくいときは，ナカムラ先生がついてきてくれるから安心だよ。

共に歩む

様々な学年，学級から様々な実態の生徒たちが在籍する特別支援学級では，生徒たちが安定した気持ちで生活できたり，継続的に学習できたりするように，時間割を設定することが大切です。そのためにも，後回しになりがちな特別支援学級の時間割を優先的に対応してもらうよう協力を仰ぐことが大切です。

生徒が見通しをもって生活できるよう，分かりやすい時間割になっているか見直し，必要に応じて工夫・改善していきましょう。

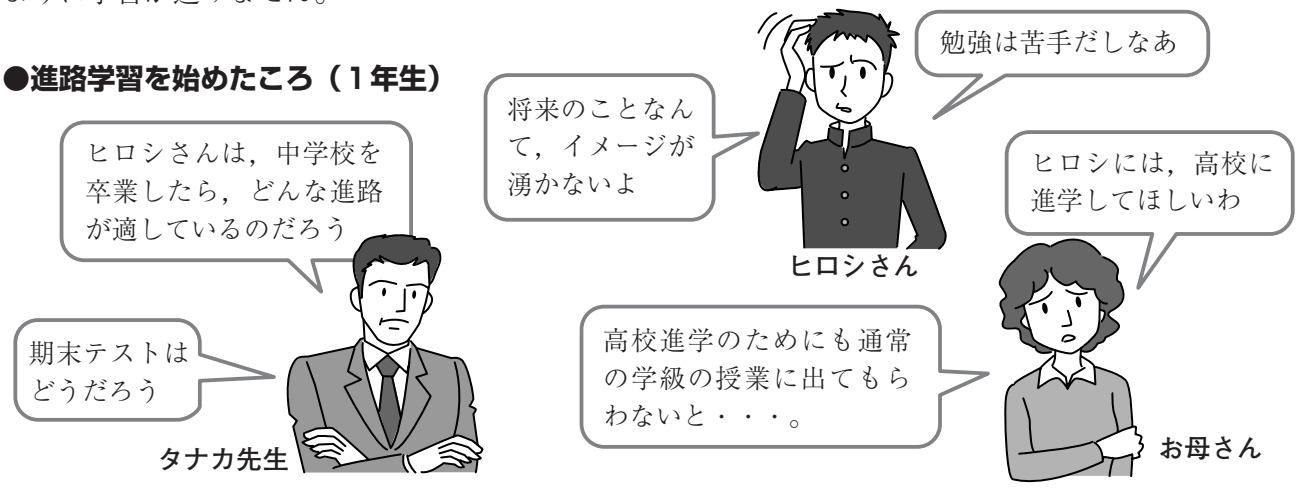
事例14 中学校の進路学習の進め方

～体験学習を積み重ねて主体的に進路選択～

初めて中学校の特別支援学級担任になった教師にとって，生徒が主体的に卒業後の進路を選択できるよう，どのように進路学習を進めたらよいか悩むところです。この事例では，中学校３年間を見通して計画的に体験学習を積み重ね，具体的なイメージがもてるよう工夫した進路学習の事例です。

中学１年生のヒロシさんは特別支援学級に在籍しています。タナカ先生は，２学期から進路学習を始めました。しかし，将来の夢や進路先について具体的にイメージをもつことが難しいようで，思うように学習が進みません。

●進路学習を始めたころ（１年生）



中学１年生のころによく見られる状況です。

タナカ先生は「個別の指導計画」や「個別の教育支援計画」を作成し，ヒロシさんの学び方の特性について検討しました。その結果，ヒロシさんは，日常生活や教科学習の中で具体的な体験場面があると理解しやすいということが分かってきました。進路学習についても体験学習が効果的であると考えました。また，進路先の情報収集や卒業までを見通した長期的な進路学習の計画を，進路指導主事の協力を得ながら立てることにしました。

「個別の教育支援計画」については，自律教育シリーズ第３集（70ページから）を参考にしてください。

●ヒロシさんの進路学習計画の一例

	進　路　先	学 習 の 内 容
進路学習	全日制高校 定時制高校 各種専門学校 養護学校高等部 就　職	①学校調べ，将来の夢を考える。 ②なりたい職業を調べる。 ③先輩の話を聞く。 ④学校見学　※交通機関も調べてみよう。 ⑤職場実習。 ※その他，公共交通機関の利用の仕方，困ったときの相談の仕方，体力の養成など，日常生活や教科学習の中で取り組む学習も大切に進めます。

１年生のうちは調べ学習など知識を増やすことにポイントをおき，２年生になってからは職場実習や高校見学など，実際に体験することにポイントをおいて進路学習を組みました。

総合教育センターホームページ「中学校特殊学級進路選択のあり方」も参考になります。

●体験学習の積み重ね（２年生）

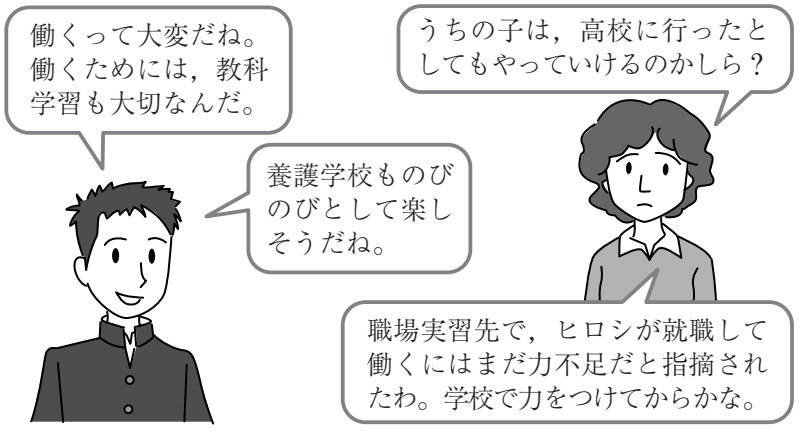
２年生になると，タナカ先生はヒロシさんや保護者と相談しながら，今後の進路先として考えられる学校や事業所への体験学習に取り組みました。中学校で実施される「職場体験学習」のほかに校長先生の許可を得て，特別支援学級単独でも職場体験学習や学校見学を実施しました（下表参照）。

進路先	体験の内容	具体的な体験例
高等学校	○学校の雰囲気や活動の内容を知ることができる ○学校によっては実技体験がある	○公立高校の指定された体験入学 ○定時制・通信制高校の見学 ○私立高校は体験入学や教育相談 注）私立高校によって方法が異なります
就　職	○実際の仕事を体験できる	○事業所（企業）や作業所で実習をおこなう。
養護学校	○学校の雰囲気や活動の内容を知ることができる ○作業学習体験などがある	○教育相談，学校見学，体験入学。

11月の三者懇談会では，次のことをポイントに話し合いました。

○　個別の指導計画に基づき，中学校入学時からのヒロシさんの「育ち」について保護者と共に共通理解する（得意な面，苦手な面）。

○　体験学習を具体的に振り返る（高等学校や養護学校の雰囲気や授業の内容，在籍している生徒の様子，職場実習の仕事への取り組み方，職場の雰囲気など）。



ヒロシさんとお母さんは，体験学習については，次のような感想をもちました。

〔ヒロシさん〕
- **学校によって雰囲気が大きく違う。**
- **友達関係に不安がある。**
- **高校を卒業したら，どのような進路があるのか分かった。**

〔お母さん〕
- **高校の教室に入ったときのヒロシの表情がこわばっていた。**
- **授業についていくことができるのか。**
- **高校を卒業したらどうなるのだろう。**

●主体的に進路選択（３年生）

３年生になり，タナカ先生はヒロシさんの進路について保護者と懇談する機会を増やし，内容も進学先の学校の様子や高校卒業後の生活へと移行させていきました。お母さんも，卒業後の生活を大事に考えるようになり，高校進学か養護学校高等部進学か選択する段階まできました。そんな中，ヒロシさん自身が，美容師になりたいという将来の希望をもつことができ，高校進学を決めました。自分の意志で志望校を決めたころから学習への取り組みが変わり，見事合格を果たしました。

共に歩む

この事例の生徒は，現在も充実した高校生活を送っていますが一方で，進学後，担任や保護者から「行かされた」という思いが募り，進路変更を余儀なくされる事例も報告されています。

重要なのは，「この学校へ行きたい！」と生徒自身が納得して進路選択できることです。そのためには，進学後の生活が具体的に分かるように体験学習を積み重ねること，同時に日常生活の中で自己選択・自己決定ができる力を養うことが支援のポイントとなります。

選択した進路が生徒を成長させるに足るものであったかどうかは，５年後，１０年後の生徒自身の姿から学ぶことになります。